

令和元年 12 月大竹市議会定例会(第 4 回)

一般質問通告表

1.

9 番 西村 一啓 議員

質問形式 一括

第五次大竹市総合計画に基づく住んでみたいまちづくりについてお尋ねいたします。

安全で安心して暮らせるまちづくりと住んでよかったまちづくりは、誰もが望むところです。本市には歴史的な文化財や史跡等もあります。これらを生かしたまちづくりの考えや計画をお尋ねいたします。

- ① 歴史、文化、伝統についての取り組み方法の考え
- ② 史跡等の案内・表示についての考え
- ③ 本市の観光資源に利用する考え

2.

16 番 山本 孝三 議員

質問形式 一括

教員変形労働時間制について

国会で審議されているこのことについて、教育委員会また市長の見解、ご意見を伺います。また、教員給与特別措置法についても併せて伺います。

公立、公的病院の再編、統合について

すでにこのことについては、広島西医療センターも対象にされていることが公表されています。地域医療を守るためにも存続にむけた取り組みが求められます。大竹市としての取り組みについて伺います。

3.

7 番 賀屋 幸治 議員

質問形式 一問一答

中学生以下のインフルエンザ予防接種費用の助成制度について

少子高齢化社会を迎える中、今年は例年よりも早くインフルエンザ流行時期に入り大流行が懸念されております。現在、大竹市では、65 歳以上の市民、または 60 歳以上 65 歳未満で、身体障害者手帳 1 級程度の内部障害がある市民は、自己負担 1,500 円で予防接種が受けられます。自由診療なので医療機関によって異なりますが、通常 1 回当たり料金が 4,000 円以上必要で、子育て世帯にとっては大きな負担になっています。また、流行が進むと学級閉鎖などによる教育現場にも影響が及ぶため、中学生以下の子供に予防接種助成制度を導入すべきと思いますが、見解を伺います。

大竹中学校プール更新について

平成 30 年 6 月定例会において採択された、大竹中学校既存プール施設の撤去及び「生命尊重の碑(仮称)」の設置を求める陳情の審査において、平成 17 年度以来使用されていないプールの撤去は、財源の確保のために事業計画が必要となることから、今後の検討課題とし、教育委員会としても水泳の重要性や必要性は十分認識しているとの見解が示されましたが、その後プールの撤去・建てかえ等に向けてどの様に検討されていますか。進捗状況について伺います。

4.

4 番 小中 真樹雄 議員

質問形式：一括

小学校 5、6 年生の外国語教科化への対応について

新学習指導要領の実施される 2020 年 4 月から小学校 5、6 年生に外国語が正式な教科として導入されます。雑誌「世界」（岩波書店）2019 年 11 月号において寺沢拓敬・関西学院大学社会学部准教授が十分な制度設計がなされないままの拙速な小学校での英語教科化の問題点を提起しています。

早期教育に効果があるのか、グローバル化に対応できるのかに疑問があるにもかかわらず、現政権が文科省や中央教育審議会の消極的意向を考慮せず、閣議決定したため、新学習指導要領に小学校での外国語の教科化を盛り込まざるを得なかったと政策決定過程を説明しています。

教科にあたっての問題点として、担当教員の増員など新たな財政措置を講ずることなく教科化が実施されると、現場が混乱をきたし、早期教育の実効性は損なわれます。

そこで、市として小学校での外国語の教科化に対しどのように取り組むつもりなのかをお聞きます。教科化の実施にあたり、外国語教員の配置はあるのでしょうか。それとも、学級担任に外国語の指導もゆだねるのでしょうか。5、6 年生の担任ともなれば、過重な職務をかかえ、さらに外国語の指導もとなると 5、6 年生の担任を避けたいと思う人がふえてくるのではないのでしょうか。そういう意向調査は行っているのでしょうか。

そのほか、市として何か独自の取り組みはあるのでしょうか、あればお答えください。外国語の教科化に際しては、担当教員の配置がぜひ必要と考えます。なんとか配置できるような財政措置ができないか伺います。

5.

13 番 山崎 年一 議員

質問形式 一問一答

広島西医療センターを「再編・統合の議論が必要」とした病院名公表について

厚生労働省は 9 月 26 日、診療実績が乏しい、類似の施設が近接しているなどの理由で、全国の 424 の病院名を公表しました。本市では、広島西医療センターが該当しており住民に不安が広がっています。本市の受け止めと今後の取り組みなどを伺います。

6.

2 番 藤川 和弘 議員

質問形式 一括

素通りの町から立ち寄るまちに

広島・宮島から岩国または、岩国から広島・宮島に移動する旅行者は平成 29 年度岩国市観光客動態調査では、約 150 万人のうち多くの方が移動手段として、乗用車・2 輪車で大竹市を通過していることがわかります。少しでも大竹市に立ち寄ってもらうためにどのような取り組みをしているのか、またこれからどのような取り組みをしていくのか伺います。

7.

14番 日域 究 議員

質問方式：一括

栗谷町谷和地区から出されたソーラー発電所反対の陳情の扱いについて

- ① 大竹市には林地開発の許可権はなく森林法には縛られない。したがって大竹市民の命と財産を守るという市政の原点に立って、この陳情に対応できる立場であるが、いかがか。
- ② 廿日市市大野嵐谷では許可権者から意見を求められて「なし」と回答。今の悲惨な状況を見た感想を。
- ③ 栗谷町谷和地区の地元は大反対であり、同意があった廿日市市大野嵐谷よりも条件が厳しい。稼働が遅れたら認定を失効させるとの報道もあり、ここでも未完成のまま開発が放置される懸念はないか。
- ④ 廿日市市大野嵐谷は計画外の物が持ち込まれた。チェックの為に立ち入りを要請する意思はないか。

8.

3番 原田 孝徳 議員

質問方式：一括

障害のあるお子さんの可能性を広げる、療育を選択できるまちづくり

本市において放課後等デイサービスは不足していると考えerがどうか。

障害のあるお子さん、そして親御さんにとっては、安心・安全が必要である。

安心とは、療育などの専門的なサービスを提供することができ、なおかつ、利用者に寄り添ってくれる事業所があるか。

そして、安全とは、送迎に際してのリスクを最小限にとどめることのできる場所にそれはあるか。

さらに、十分な環境が整っていないことで、わずかでも他市に人口が流出する可能性が危惧される。

これらの観点から、本市における放課後等デイサービスの現状についての考えを聞かせていただきたい。